第１６回漢方教室（漢方）

咳に効く漢方－喘息や気管支炎などの症状を緩和する－

Ⅰ．長野県長谷村におけるフィールド調査

1　調査の概要

長野県上伊那郡長谷村（現：長野県伊那市長谷地区）

人口：2,242 人（男 1,057 人、女 1,185 人）

高齢化率：39.1%（2003 年 1 月現在）

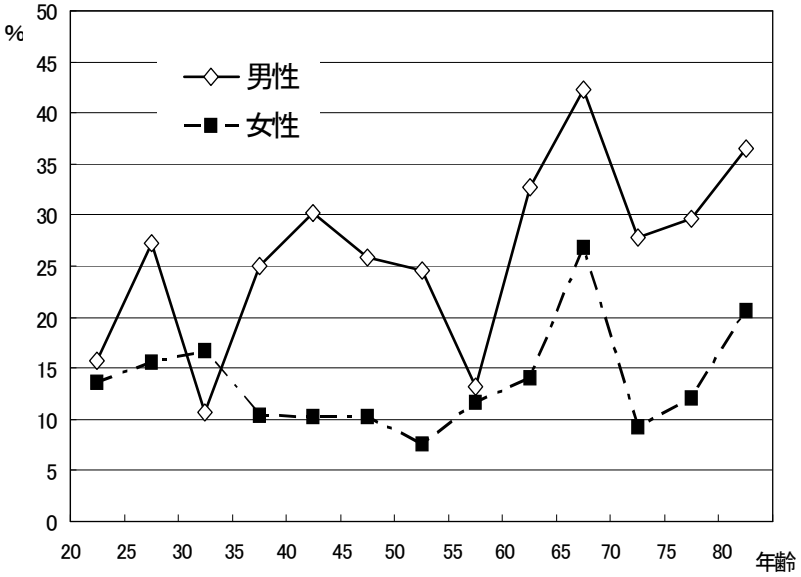
住民アンケート調査

実施日：2002 年 11 月 12 日から 22 日まで

対象：20 歳以上の全住民、合計 1,486 人

有効回答者数：1,199 人（有効回収率：80.7%）

2　咳や痰が出る人の割合



「普段から咳や痰がよくでる」と訴える人の男女の割合

咳や痰が出る人の割合

男性：27.2%

女性：13.4%

喫煙率

男性：39.8%

女性：　4.4%

3　咳と慢性閉塞性肺疾患（COPD）

慢性的な咳や痰、呼吸困難を訴える人の中には COPD が存在（慢性気管支炎・肺気腫など）

肺の構造が壊れて息を吐くことが困難になり、呼吸不全で死亡することがある

喫煙者の 15～20%は COPD なので、慢性呼吸器症状があれば必ず専門医を受診する

Ⅱ．咳の西洋医学的原因と主な治療法

「慢性咳嗽の診断と治療に関する指針」（日本咳嗽研究会、アトピー咳嗽研究会記録）より

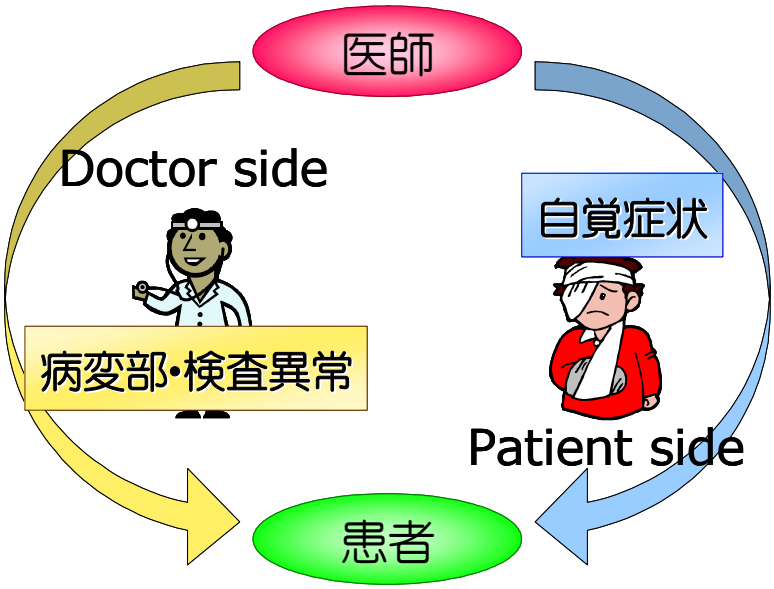
1　湿性咳嗽

（1）副鼻腔気管支症候群（去痰薬、マクロライド）
（2）後鼻漏（ヒスタミンH_1拮抗薬、ステロイド、抗菌薬の局所投与）
（3）慢性気管支炎（禁煙）
（4）限局性気管支拡張症（抗菌薬、切除）
（5）気管支喘息による気管支漏（ステロイド）
（6）非喘息性好酸球性気管支炎（ステロイド）
（7）肺癌、とくに肺胞上皮癌（？）
（8）気管支食道瘻、気管支胆嚢瘻（瘻孔の閉鎖）

2　乾性咳嗽

（1）アトピー咳嗽（ヒスタミンH_1拮抗薬、ステロイド）
（2）咳喘息（気管支拡張薬、ステロイド）
（3）アンギオテンシン変換酵素(ACE)阻害薬による咳嗽（薬剤の中止）
（4）胃食道逆流（H_2拮抗薬、プロトンポンプ阻害薬）
（5）咽頭アレルギー（ヒスタミンH_1拮抗薬、ステロイド）
（6）間質性肺炎、肺線維症（？）
（7）心因性（心療内科的治療）
（8）気管支結核（抗結核薬）
（9）肺癌、とくに中心型肺癌（癌に対する治療）

Ⅲ．咳治療における漢方の役割



Doctor side
　病変部・検査異常
　　細菌、がん、炎症反応など
　　→ 西洋医学を優先

Patient side
　自覚症状
　　咳、痰、呼吸苦など
　　→ 漢方を優先

Ⅳ．漢方からみた咳

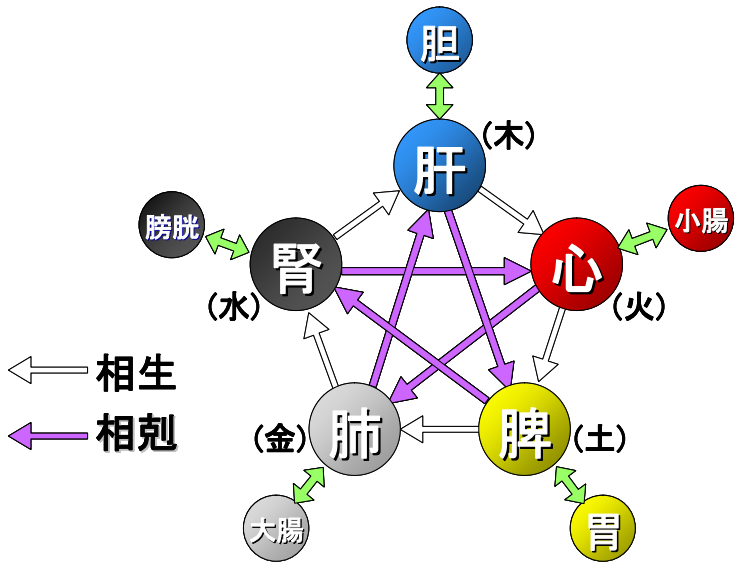
1　五臓の異常と臨床症状

肝	心	脾	肺	腎
・怒りっぽい ・筋肉の痙攣 ・目の異常 ・精神不安定	・不眠 ・舌先端が赤い ・汗をよくかく ・過剰な喜び	・食欲異常 ・手足が黄色い ・涎をたらす ・胃腸虚弱	・呼吸器の症状 ・皮膚の異常 ・涙が出る ・憂鬱、悲しみ	・老化現象 ・夜間頻尿 ・集中力低下 ・驚き、恐れ

2　五臓の対応表

五臓	五腑	五竅	五主	五色	五味	五志	五声
肝	胆	目	筋	青	酸	怒	呼
心	小腸	舌	血脈	赤	苦	喜（笑）	言
脾	胃	口	肌肉	黄	甘	思（慮）	歌
肺	大腸	鼻	皮	白	辛	悲（憂）	笑
腎	膀胱	耳	骨	黒	鹹	恐（驚）	呻

3　五臓の相生相剋



4　五臓六腑のいずれが原因でも咳を生じる

「黄帝問ウテ曰ク。肺ノ人ヲシテ欬セシムルハ何ゾヤト。」

「岐伯對エテ曰ク。五臓六腑ハ皆人ヲシテ欬セシム。獨リ肺ノミニアラザルナリト。」

（『黄帝内経・素問』欬論編）

Ⅴ．漢方治療の実際

1　咳嗽一般（気管支炎など）

痰を伴わない乾性の咳（空咳）と痰を伴った湿性の咳に分けて考える

1）乾性咳嗽

①**半夏厚朴湯**[16]（はんげこうぼくとう）

咽に痰がからまって取れない／息が吸いにくい／不安感が強い／心身症的傾向

②**柴朴湯**[96]（さいぼくとう）

半夏厚朴湯が無効／炎症の遷延化

③**麦門冬湯**[29]（ばくもんどうとう）

喉がイガイガする／発作性に顔を真っ赤にして咳き込む／最後には吐きそうになる

④**滋陰降火湯**[93]（じいんこうかとう）

夜間に咳き込む／喉が乾燥してテカテカしている／高齢者の慢性咳嗽

2）湿性咳嗽

①**麻杏甘石湯**[55]（まきょうかんせきとう）

喀痰や喘鳴を伴って強く咳込む／呼吸促迫を伴い、発作時に汗をかき、口渇を認める

②**竹茹温胆湯**[91]（ちくじょうんたんとう）

夜間に咳や痰が多い／安眠できない

③**参蘇飲**[66]（じんそいん）

胃腸虚弱／カゼが遷延化して咳が出る

④**清肺湯**[90]（せいはいとう）

痰は粘稠で量が多く、切れにくい／膿性痰／慢性呼吸器疾患に応用される

⑤**柴陥湯**[73]（さいかんとう）

激しい咳が続き、その度に胸にひびいて痛む

2　気管支喘息

喘息発作を生じるパターンによって、以下の３つのタイプに分けて考える

1）呼吸困難タイプ

喘息発作が息苦しさで始まるタイプ（心因性要素が強い）

①**柴朴湯**[96]（さいぼくとう）

発作に対する不安感が強い／発作予防

小柴胡湯（体質改善）と半夏厚朴湯（息苦しさを改善）を合わせた処方

②**神秘湯**[85]（しんぴとう）

柴朴湯タイプで、実際に咳発作を生じてゼーゼーしている

2）咳き込みタイプ

まず咳込んでから息苦しくなるタイプ

①**麻杏甘石湯**[55]（まきょうかんせきとう）

ゼロゼロと胸の奥から激しく咳き込む／咳発作時に発汗／小柴胡湯と併用する

３）アレルギー性鼻炎タイプ
くしゃみ、鼻水から始まり、次第に喘鳴が激しくなるタイプ
①**小青竜湯**[19]（しょうせいりゅうとう）
くしゃみ／水のような鼻水／柴胡桂枝湯と併せて服用する
②**苓甘姜味辛夏仁湯**[119]（りょうかんきょうみしんげにんとう）
小青竜湯タイプで以下のもの（胃腸の機能が悪い／顔色不良／顔面がむくむ）

３ 体質改善
慢性呼吸器症状を訴える人は、病気が長期にわたり、体力が低下している場合が多い
咳を止めることではなく、消耗した体力を回復させることに発想を転換する
結果的に西洋薬の効果が高まる、西洋薬を減薬できるなどの効果が現れることがある
比較的体力が低下していない気管支喘息の場合、柴胡剤を多用する

１）慢性炎症（柴胡剤）
柴胡（さいこ）には、慢性炎症を抑え、免疫状態を改善する作用がある
①**大柴胡湯**[8]（だいさいことう）
体格が頑丈／便秘傾向／上腹部が張っている
②**小柴胡湯**[9]（しょうさいことう）
気管支喘息の体質改善薬として頻用する／麻杏甘石湯と併用することが多い
③**柴胡桂枝湯**[10]（さいこけいしとう）
小青竜湯と併用することが多い
④**柴胡桂枝乾姜湯**[11]（さいこけいしかんきょうとう）
痩せて体力がない／体がだるい／口が乾く／動悸がする／首から上に汗をかく

２）胃腸虚弱・体力低下
①**小建中湯**[99]（しょうけんちゅうとう）
虚弱体質／腹痛や下痢をおこしやすい／特に胃腸虚弱な虚弱児に多用する
→ 胃腸が強まると肺も丈夫になる（相生理論）
②**補中益気湯**[41]（ほちゅうえっきとう）
疲れやすい／だるい／寝汗をかく／食後に眠くなる／微熱がある
COPD で罹病期間が長期化しているものによい
（COPD：気管支拡張症や慢性気管支炎などの慢性閉塞性肺疾患）